

2019 年度事業報告

I 山岳および登山に関する学術調査および研究について（定款第 2 章第 4 条第 1 項）

1. 1979 年に設立されたヒマラヤ委員会を適宜開催し、海外高峰への学術登山隊派遣について検討を重ねた。
2. カラコラム、ネパール、中国、ブータン、ヒンズークシおよび南極地域における登山ならびに学術探検に関する研究を継続した。
3. 973 年 4 月に本会内に設立された旧国際登山探検文献センターで収集された登山探検資料を京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に寄贈し、文献資料目録を編纂するとともに引き続き資料の充実と収集資料の整理を行った。
4. 会設立から現在まで本会会員が主催または参加した海外遠征の写真、映像資料を集める AACKアーカイブス事業委員会（委員長：会員松林公蔵）を設けて、資料の整理にあたった。
5. 雲南・チベット地域の総合的研究を目的に 2004 年に設立された雲南懇話会（代表：会員安仁屋政武）の運営に協力した。
6. 「ヒマラヤという第 3 の極地」を対象にしたユニークな教育研究組織として 2016 年に設立された京都大学ヒマラヤ研究ユニット（ユニット副代表：会員幸島司郎，ユニット事務局長：会員坂本龍太）の運営に協力した。
7. 第 39 回日本登山医学会学術集会の運営に本会会員が協力した。

II 一般社会に対する健全な登山の指導奨励ならびにこれに必要な研究会、講習会および展覧会等の開催について（同第 2 項）

1. 京都大学山岳部との共催で 2019 年 8 月に夏季登山講習会を開催した。
2. 公益社団法人日本山岳会評議員として会員中山茂樹が、同関西支部評議員として会員平井一正、田中昌二郎が同会の運営に協力し、国内外の登山探検の振興に努めた。
3. UIAA（国際山岳連合）の医学委員として会員中島道郎、松林公蔵らが同会の運営にあたった。
4. 2019 年 8 月 11 日に山梨県甲府市で開催された第 4 回山の日記念全国大会の実行委員会副会長として会員松沢哲郎がその運営に協力した。

III 国内、国外における登山および探検に対する企画および協力について（同第 3 項）

1. 2019 年 5 月から 11 月まで、新潟県妙高市笹ヶ峰において、会員幸島司郎らが京都大学山岳部との共同で同山岳部の管理する京都大学笹ヶ峰ヒュッテの維持管理ならびに同地域の環境保全に協力した。

IV 山岳登山に関する図書、機関誌などの発行について（同第 4 項）

1. 『2018 年度事業報告および収支決算書・2019 年度事業計画および収支予算書』を作成し、会員に配布した。
2. 『AACK Newsletter No.89～No.92』の編集・発行を行い、会員相互の情報交換を図った。
3. 京都大学ヒマラヤ研究会、京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院ならびに京都大学ヒマラヤ研究ユニットが発行する『ヒマラヤ学誌 第 21 号』の編集に協力した。
4. 『AACK 時報 第 15 号』の編集作業をすすめた。
5. 本会の公式ウェブサイト（www.aack.info）を運営し、本会の歴史や事業活動および社会的貢献について広く情報公開するとともに、会員および会員外の情報交換の場を提供した。
6. 2011 年 5 月の本会総会で設置が決定されたアーカイブス委員会を中心に資料収集とその整理・デ

デジタル化を進め、本会の公式ウェブサイト（www.aack.info）内で立ち上げた「AACKの活動アーカイブス」の充実に努めた。

- V** 目的を同じくする国内および国外の団体との連絡ならびに情報の交換について(同第5項)
1. 現地国での登山・学術調査を契機として始まった国外の関係機関との交流をさらに深めた。

